

## ごみ処理の有料化に関する説明会

1 日 時：令和3年10月9日(土) 午前10時～11時40分

2 場 所：浅羽東コミュニティーセンター

3 出席者：38人

### 4 次 第

(1) あいさつ

(2) ごみ減量啓発動画の視聴

(3) ごみの有料化(案)の説明

(4) 質疑応答

Q：CO2削減は賛成だがこのやり方で減らせるか疑問。袋の値段を上げてごみが減ってもしばらくして戻ってしまい、また値上げしようという繰り返しになるかもしれない。45種類の分別で80%削減した自治体があると聞いた。袋井も以前はしっかりやっていたが平成28年度の見直しから、容プラが減って燃えるごみが増えた。市の指導を反省せずに今回の値上げはおかしい。分別を徹底してほしい。布の回収場所は4箇所しかないので増やしてほしい。減量は市の姿勢と方針をしっかりださないと単に値上げで減らすというのでは減量できないので、家庭ごみ以外も増えた要因の分析を行い、増えたところをどう減らすか。プラスチックや汚泥。クリーンセンターは迷惑施設ということで地元住民は無料と聞いたが、業者も無料と聞いた。本当なら是正をすべき。ごみ袋を買いだめしないでと書いてあるが1年は使えるとしてあり、これでは買いだめすると思うし、不公平が生じる。しっかり考えてほしい。いったん立ち止まり、分別を考える。それでだめなら、値上げを考えるようにしてほしい。

A：平成28年度の見直しで、リサイクルできる容プラもごみ袋に入ってしまったため、間違いと広報しているが払拭までできていません。先程説明の中でも分別の仕方をお話ししましたが、今後も多くの皆さんにしっかり伝えていくよう努めます。布はコロナにより輸出が止まり、収集しなくなった経過があるが、最近復活し始めており、今後増やしていける方策を考えたいと思います。今までの市の取組は、お金をかけずにお願いの形でやってきており効果が出ていないため、今の案は30円負担をいただき、そのお金で減量化策を行っていきたいと考えており、一旦値を上げておいて、また値上げをするということがないように施策を講じていきます。クリーンセンターの汚泥処理は、下水汚泥と浄化槽汚泥。下水汚泥が増えていますが、以前は県外まで運び民間で肥料化処理していたものを、遠くて処分費がかかることから、クリーンセンター建設に合わせ燃やすこととして計画し、国の補助ももらっています。下水道区域が広がれば発生する汚泥も増えることとなります。増加した5,000tの約半分は汚泥、800tは袋井の家庭から、もう800tは市内事業所、残り800tは森町からで、今回は袋井の家庭ごみ800tについて話をしていますが、事業所へも削減を求めています。クリーンセンターの地元の減免はありますが、事業者の減免はしていません。また、買いだめについては、掛川市が有料化の際に半年間としたが、短くてパニックが起きたということで「1年くらい余裕を持った方がいいよ。」というアドバイスを受け現在の案となっています。

Q：掛川市が半年としたためにパニックが起きたとのことだが、1年の方がパニックになると思う。掛川のパニックの理由、把握していることはあるか？

A：買いだめを考えていなかったのは、市としても浅はかだったかもしれませんが、説明会を行うと周知した途端、まだ1年間というのも言っていないうちに買いだめが起きてしまいました。1年以上購入した方もいるかもしれません。掛川市でも同様に半年間という前に買いだめが起きてしまい、半年たってもまだかなり手元に残っているということでトラブルが起きたと伺っています。

Q：なぜ40円まで上げるのか、もう少し安い値段で試してもいいのでは。県下一高く、他より倍くらいである。何を考えているかと思う。お金を何に使うのか、いい加減な説明しかないし、そこまで上げなくてはいけない理由をもう少し説明してほしい。それと、実は既に多くの袋を買ってしまっている。なぜ最初から、いつまで使えるかということ流さなかったか、値段が上がるということばかり先に流れてしまい、そうすると買ってしまふよね。先程不公平になるから期間を早めるという意見があったが、私のような場合は、古い袋を捨てるのではなく、例えばもう30円寄付したら寄付シールのようなもの張って使える、といったことを考えてほしい。

A：金額については、動画にありましたように30円あげると一番削減の効果があるということが分かっているため、30円を提案しています。ただ、決定したということでお伝えしているのではなく、説明に当たっていくらにするのか、その根拠がないのでは説明できませんので案としてお示ししています。各会場でいただいたご意見をもとに総合的に判断して決めていきたいと考えていますので、ご理解ください。袋の寄付シールというのはいいアイデアと思います。説明会で袋の使用期間の説明をさせていただくつもりが、それ以前に買いだめが起き、後手に回ってしまったということについては大変申し訳なかったと思っています。また、今後対策については検討していきたいと思っています。

(梅山自治会からの事前質問への回答)

Q：不法投棄が増えるのではないか

A：不法投棄につきましては、現在2名1班体制で対応していますが、2班体制とすることを考えています。

Q：この時期に値上げが必要なのか

A：実は令和3年度から有料化という予定がありましたが、コロナもあり先送りした経緯があります。コロナについてはワクチン接種が進んでいることもあり説明会を行っておりますが、地球温暖化への対応を急ぎ進めていく必要があるという考えからこの時期としております。

Q：クリーンセンターへの搬入時の料金は変わるのか

A：クリーンセンターは、平成20年の稼働から料金の変更はなく、掛川磐田はこの間に値上げをしています。これにより、磐田掛川から料金が安い袋井へごみが入ってきてしまうということが起こってしまいます。例えば収集業者さんは、袋井だけではなく磐田と袋井を回るといふところもあり、そうすると磐田から集め始めて、袋井市内を回収した後の中遠クリーンセンターへ捨てる安く済むということになります。そういうこともあり、センターの運営は袋井市と森町の組合組織となりますが、現在、手数料改訂の検討をしているところです。

Q：クリーンセンターの処理費は、現状と値上げ後でどのように変わるのか

A：現状ではごみ処理経費全体で12億円、うち可燃ごみは収集と処理で9億円ほどかかっています。値上げ後の比較というのは後ほど回答させていただきます。(※)

※ 当日は回答していませんが、現状と値上げ後の処理経費の比較につきましては、処理費の中でクリーンセンターの修繕費等が占める割合が大きいため、例えばごみが半分に減っても処理費が半分にはなりません。目標としまして、2030年までに年間3,000万円の削減を目指しています。

Q：他地区ではどのような質問があったのか

A：質問事例としまして、不法投棄の話や袋の値段が高い、まず分別を先にやるべきではないかなどが多く出ています。各会場のアンケートの結果と会議録をホームページに掲載していますので、ご覧いただきたいと思います。また、全会場終了後、班内回覧でお知らせしていく予定であります。

Q：ごみを出すときに（容器包装プラスチックを）水洗いするので、水道料金値下げとセットの検討はできないか

A：この点については私からお答えできませんのでご理解いただきたいと思います。

Q：今現在袋井市で使われているごみ袋はどのくらいあるのか？その数に対してどのくらい減らす目標なのか。みんなが買う袋、これ1枚1枚がCO2削減につながっていくんだよとしていきたいと思う。

A：今現在の使用枚数は550万枚です。全会場の説明会終了後、市の考えを固めていきます。その中で最終的に袋をいくりにするのか、それにより収入がいくらで、どんな減量化策を行っていくのか具体化させ、目標も決めていきます。その後は効果がどの位であったのかということをお知らせしていきたいと考えています。

Q：コロナの時期で急に上げるのは負担が大きい。また、高齢の人も増えており、おむつなんかは可燃物であり一軒当たりの負担大きくなると思う。30円が最も効果が大きいという点の根拠を教えてほしい。やはり分別が第一、以前の見直しにより回収されるプラスチックも減ったと思う、もっと早くはっきり伝えるべきである。もっと連絡を密に市民に知らせること、説明会やるのもひとつの手だし、配布しても見る人ばかりではない。

A：30円というのはあくまでも市の案でありますので、ご意見を参考とさせていただき最終的に決めていきたいと思います。おむつの件は高齢者もそうですが、子育て世代からのご意見をいただいております。例えば別の袋で集めるなど、有料化料金がかからないような集め方を検討しているところです。30円の根拠については、動画にありましたが東洋大学の山谷教授という方、ごみ処理有料化研究の第一人者なんですが、全国で有料化した市町村にアンケート調査して取りまとめた結果が、30円台が一番効果が大きかったということでありまして、これを根拠として案を作っています。それからプラスチックの分別については、平成28年度の見直しで悪くなった状況があります。これまでも回覧物や「水切り大作戦」などの取り組みの中で啓発してきた経過もありますが、以前のような状況には戻っていません。ただ、今回説明会を通して、皆さんにごみ処理への関心を強く持っていただいておりますので、この機を生かしてさらに分別の徹底を呼びかけしていきたいと考えます。

Q：家ではしっかり分別していると思っている。今のお話にあった、山谷教授の調査を根拠としたのというのは納得できない。市として、これだけお金がかかっている、今後もこ

れだけ必要、そういうのがあって30円というならわかるが。

A：具体的な提案がないのでは説明できませんので、環境省も山谷教授のデータを認めて手引書などに載せていることから、そこを拠り所とさせていただいています。市としてどれだけ必要かということについては、例えば30円であれば収入は約1億4千万ほど増えます。雑紙を集団回収で集めるとすると、190箇所ありますので1千万円以上、草木の回収を例えば自治会ごと年2回くらいコンテナをおいて回収すると約2千万円、プラスチックも回収量が増えると委託の経費が増え5千万円ほど増加見込み、生ごみのリサイクルは、生ごみ処理機の補助として約300万円、また大型生ごみ処理機の共同使用を考えていますけれども、大きさにより200万から500万円かかります。これらすべて実施した場合は1億2千万円ほどと見込んでいます。

Q：値上げ以外で減らす手段がよくわかりました。例えば1年間委ねてもらい、我々も意識をもって取り組み、その状況で30円というならそれはしょうがないと思う。少しでも金額を減らすことにつながるのなら私たちもうれしい。

A：今おっしゃっていただいたご意見も参考にさせていただき、総合的に判断していきたいと思います。

Q：集団回収（月2回）は手間とを感じるが、浜松市のように、月曜は紙、火曜は可燃ごみ、水曜はプラスチックごみというような個別の回収を、経費がかかるかもしれないが考えていただけるとありがたいと思う。

A：浜松のように、集団回収場所にステーションを設置して、曜日ごとに不燃物、可燃ごみなど出してもらい収集するものをステーション方式といっています。実は有料化と合わせて検討した経過がありますが、場所によって公会堂敷地など、ステーションを設置するスペースが確保できないところも多く、また、この方式により住民の立会も減らせるかと考えましたが、分別が乱れる恐れがあって余計大変になりそうだとの声が多く、頓挫している状況があります。ただ、プラスチックについてはできれば週1回可燃ごみのように出せるようにしたいとは考えています。今、国が全てのプラスチックを一括で回収することを考えていますので、その内容を見て決めていきたいと思っています。集団回収で容器包装プラスチックがかなりかさばるものですので、週1回プラスチックを出すとすると、新たな袋を作る必要もあるかと思いますが、集団回収の立ち合いの人数は減らせるかと思っています。

Q：藤枝市や焼津市は有料化されてなく、指定ごみ袋も無しとなっているが、市民の皆さんはどのような工夫をされているのか分かっていたら教えてほしい。

A：焼津市は決してごみの量が少ない方ではないので、あまり参考にしていませんが、藤枝市は有料化していなくても少ない。理由としまして、市内に生ごみ処理の事業者さんがあり、発生する生ごみを回収してそこで処理していますので、量が少なくなっています。袋井市も市内にあれば生ごみの解決になりますので、事業者と検討を進めていましたが、においの問題などでうまくいっていない状況です。

Q：ごみ袋の買占めが気になっているが、以前買いに行ったら袋が売り切れており、ごみを出せなくなってしまうかと心配した。店も仕入れ量を減らしていくと思うが、有料化前の3月に袋が店頭から消えてしまうのでは。ごみ袋を買えるようにしっかり対応してほしい。

A：一時期市民の皆さんから多く問い合わせがあった時に、製造業者に増産を依頼し、職員が時々店頭を確認していますが、現在は落ち着いていると思っています。今のところ

は4月から有料化を予定していますが、1年間は今の袋を使えるのでその間にお店の在庫が徐々になくなり、それとともに新しい袋が出回るというような形ですので、有料化前にごみ袋がなくなってしまうということはないということをご理解願います。